



発行所
日本工業大学
広報課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号 345
電話 0480(34) 4111



新実験・研究棟の工事進む

鉄筋コンクリート三階建

新しい実験・研究棟が、図書館と野球場との間に建設されることになり、現在、工事が進められている。これに先立ち地鎮祭が、三月十五日午前十一時から、現場に学長ら本学関係者と建設会社の関係者が列席して行われた。

新実験・研究棟は、鉄筋コンクリート三階建て、建物面積が一、九九五平方メートルの規模で、八月に完工の予定。
本学では、高額の最新設備を導入して、教育・研究の活性化をはかるとともに、新しい技術的ニーズに即応するための研究を展開している。しかし、現場担当者から実験・研究の環境面での改善を要望する声が大きく、新しい実験・研究棟の完成が待たれていた。

木村助教(数学)理学博士を取得



本学数学科の木村哲三助教は、一月十七日、東京理科大学から理学博士の学位を授与された。学位論文は、「P-BASIS OF A REGULAR LOCAL RING OF CHARACTERISTIC p」である。

西尾教授、日本人初の快挙

米写真測量学会名誉終身会員に



本学情報技術センターの西尾元充教授は、アメリカ写真測量学会(The American Society of Photogrammetry)から同学会の名誉終身会員を授与された。この学会は創立五十周年を迎え約一万人の会員をもち、写真測量およびリモートセンシングに関する世界最大の学会で、宇宙開発の中心的役割を担っている、世界でも権威ある学会である。

This is to Certify that
Motomitsu Nishio
Is An Emeritus Life Member of
The American Society of Photogrammetry
In Good Standing and Entitled
to All the Benefits and Privileges of the Society
William D. French
Executive Director

この吉報は、一九八三年十二月三十日付けで、アメリカ写真測量学会のウィリアム・D・フレンチ氏から、名誉終身会員カードとともに送られてきたものである。

秋田県下で実用化をめざす

制御工学研、横手工高らと共同で



本学機械工学科制御工学研究室(町山忠弘教授)では、局所水力エネルギー利用技術の研究を進めているが、このたび秋田県平鹿郡十文字町と平鹿町で、農業用水を利用したミニ水力発電の実用化に向けて実験研究を進めることになった。

この研究は、秋田県側と共同で行われるもので、研究の母体となる「農業用水路における水力回収・利用に関する研究会」(会長・町山忠弘教授)がすでに発足している。メンバーには町山教授のほか、本学から松本正勝教授、秋田県側からは十文字、平鹿の両町長はじめ地元関係団体、県、横手工業高校と大曲工業高校の教諭らが参加している。

十文字町のミニ水力発電は、すでに五十五年度から横手工業高校の協力で、現地実験や室内実験が行われてきたが、町財政の都合などで、五十七年度からは中断されていた。しかし、県エネルギー対策室の懸命な後押しもあって、本学と共同で本年度から再開されることになった。この計画は、三年からで実用化を目指すもので、すでに現地測量を終え、いよいよ本格的な実験研究段階に入ることになる。

農業用水を使ったこのミニ水力発電は、いままでの実験結果では、一・八キロ・ワットの電力しか得られなかったが、水車に改良を加えることで、十キロワット程度の電力が得られる見通しがたっている。また、調査の結果、水量の季節的な変化も少なく、農業用エネルギー源としてのミニ水力発電は、ハウス栽培などに利用できる公算が大きい、と考えられている。

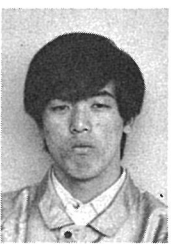
特別奨学生

機械工学科

石井 幸二(岩村町)



田那邊修市(宇都宮市)



秋山 健一(市川市)



田中 拓(松本市)



電気工学科

武井 秀行(桐生市)



藤島 正志(大館市)



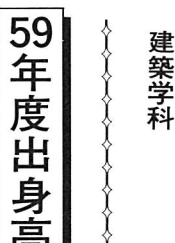
萩原 政朗(下館市)



湯井 久生(藤岡市)



建築学科



保谷 悟(東京市)

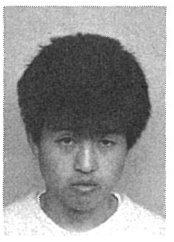


システム工学科

橋本 一男(真岡市)



横内 伸一(岡谷市)



59年度出身高校別入学者数

- 北海道 釧路工(2) 苫小牧工(3) 室蘭工(2) 旭川工(1) 旭川実業(2) 青森青森工(5) 五所川原工(5) 十和田工(3) 八戸工(1) 弘前工(4) むつ工(2) 弘前電波工(1) 岩手一関工(1) 大船渡工(2) 釜石工(1) 福岡工(2) 水沢工(1) 盛岡工(3) 宮城石巻工(1) 白石工(6) 古川工(1) 秋田秋田工(1) 大館工(3) 能代工(3) 由利工(1) 横手工(1) 山形山形工(1) 鶴岡工(5) 長井工(1) 山形電波工(1) 福島会津工(3) 小高工(1) 川俣工(1) 郡山北工(1) 平工(6) 埼玉(1) 福島工(7) 茨城大宮工(1) 勝田工(6) 下館工(14) 総和工(4) 高萩工(2) 玉造工(3) 土浦工(8) 波崎(3) 日立工(3) 水戸工(8) 栃木今市工(2) 宇都宮工(6) 栃木工(6) 真岡工(2) 足利学園(2) 作新学院(4) 群馬伊勢崎工(6) 太田工(6) 桐生工(5) 高崎工(6)
- 長野原(2) 藤岡工(6) 前橋工(3) 渋川市工(2) 千葉市川工(17) 京葉工(5) 清水(6) 千葉工(10) 東総工(6) 千葉商(5) 千葉経済(2) 埼玉筑波大坂工(3) 浦和工(12) 大宮工(20) 春日部工(18) 川口工(12) 川越工(18) 行田工(9) 久喜工(6) 熊谷工(14) 児玉農工(1) 狭山工(12) 玉川工(6) 秩父農工(4) 与野農工(2) 越生(2) 羽生第一(1) 草加東(1) 東京東京大付属工(1) 足立工(8) 荒川工(8) 王子工(3) 葛西工(6) 鳥山工(2) 北豊島工(1) 蔵前工(1) 小石川工(1) 工芸(1) 江東工(3) 小金井工(3) 杉並工(5) 世田谷工(3) 田無工(3) 多摩工(1) 中野工(1) 練馬工(1) 八王子工(1) 羽田工(1) 府中工(1) 本所工(6) 町田工(1) 港工(1) 向島工(3) 岩倉(1) 関東第一(6) 昭和第一工(4) 豊島実業(1) 安田学園(1) 本郷(5) 目黒(2) 八王子実践(1) 工学院大(1) 昭和鉄道工(3) 美里工(2)

- (1) 北野(1) 神奈川崎工(1) 相模台工(1) 藤沢工(3) 横須賀市工(1) 川崎市工(2) 鶴見工(3) 山梨機山工(5) 北富士工(2) 峡南(1) 甲府工(2) 韮崎工(3) 谷村工(1) 新潟柏崎工(1) 三条工(1) 新潟田南(5) 高田工(4) 燕工(5) 長岡工(7) 新潟工(1) 新潟東工(2) 巻工(2) 高志(1) 新潟工(1) 長野飯田工(4) 飯田長姫(2) 池田工(3) 岩村田(6) 上田千曲(8) 岡谷工(3) 駒ヶ根工(2) 長野工(3) 中野実業(2) 松本工(3) 箕輪工(2) 富山砺波工(1) 石川石川県工(1) 小松工(1) 金沢市工(1) 七尾工(1) 福井武生工(1) 敦賀工(3) 静岡静岡工(5) 島田工(4) 清水工(3) 修善寺工(11) 掛川工(1) 沼津工(2) 浜松工(3) 浜松城北工(9) 吉原工(1) 静岡工(2) 興誠(1) 愛知小牧工(1) 豊橋工(4) 岐南(1) 津工(1) 三重伊勢工(2) 津工(1) 滋賀彦根工(1) 京都石原(2) 伏見工(2) 大阪今宮工(1) 茨木工(1) 工芸(1) 兵庫尼崎工(3) 飾磨工(1) 龍野実業(2) 兵庫工(1) 姫路工(1) 西脇工(1) 奈良御所工(1) 吉野(1) 和歌山新宮(1) 鳥取境港工(2) 米子工(1) 島根江津工(1) 松江工(1) 岡山岡山工(4) 水島工(1) 関西(1) 広島県立広島工(2) 三次工(2) 宮島工(3) 市立広島工(1) 三原工(1) 山口岩国工(1) 下関工(1) 徳島鳴門工(2) 城南(1) 香川高松工芸(1) 愛媛今治工(1) 新田(1) 高知安芸工(1) 高知東工(1) 長崎鹿町工(1) 熊本球磨工(1) 八代第一(1) 大分大分工(2) 鶴崎工(2) 宮崎都城工(1) 鹿児島鹿児島工(3) 加治木工(2) 鹿屋工(1) 栗野工(2) 神埼沖繩工(2) 中部工(1) 北部工(3) 美里工(2)

第24回国際機械工作・設計 会議に出席しての感想

村 川 正 夫

昨年の八月三十一日、九月一日の両日、表記の国際会議が英国のマンチェスターにあるUMIST (The University of Manchester Institute of Science & Technology) で開催され、大川教授と著者の両名が参加した。発表論文は、歯車部品の温間プレスシェーピング加工」と題するもので、内容は通常の塑性加工法ではこれまでに製作不可能であった厚板の歯車部品を著者らが開発した新しい前記塑性加工法で製作可能となったので、その結果をとりまとめて発表したものである。

本会議は略してMTDR会議と呼ばれているもので、毎年英国で開催されてきた。今年は二十四年目にあたることからわが国のように大変伝統の古い国際会議である。通常は三日間の期間がとられるのであるが、今年は応募論文数も幾分少なかったとみえて二日の期間となった。

参加国は広範囲にわたっていたが、特徴的なことは英国以外では日本が一番参加者が多く、米国からの参加者が意外に少なかったということである。これは米国にも類似のNAMRC(北米製造技術研究会議)というものがあって英国と張り合っていることが一因であると思われる。なお中国からの参加者が多いことも注目された。

会議は十七のセッションに分けられ、約六十編の論文が発表された。日本での学会講演にくらべて質疑応答が大変活発であるのは予想通りのことであった。ここで特筆すべきは中国人の発表態度についてである。我々のセッションにおいても幾つかの論文が中国人によっても発表されたがそれに対する著者の感想は次の通りである。①発表の内容は日本でも十年以上も前に行なわれた研究の内容と類似したものがあつた。②そのような日本での従来の研究成果についての調査が不十分であると思われた。③発表の英語はまるで英語を単に中国語式に読んでいる様にひどかったこと、但し彼らは自分の日本語もそうであったことを考えれば、残念なことではあつても不思議ではないのだが、④は日本人の一般的習性と大層異なっており、極めて興味深かつた。日本人は英語が下手なのでと思つてゐるのに国際会議に発表するのがついおつちになつてゐるというのが我々のいつわらざる心境であると思ふのだが、中国人のあの悪びれない態度は大いに見習うべきであらう。さてこのように「粗末な英語での」発表に対する英国人研究者の反応はどうであつたかという点、最初は英国人も中国人の研究が日本で昔研究されていたのを知らないので、



講演直前の著者

生産の技術史を研究しており、昨年は「缶詰用缶の生産技術史」(奈良時代の大量生産)のタイトルで研究成果を昨年の足立した機械学会生産技術史分科会などに発表し、現在は日本における鉄砲の生産技術史について研究を進めている。教育工学部は当研究室の寺沢幸雄教育技術員が主となつて研究を進めていて、今までに機械製図法の講義用のビデオテープなどを製作し、その製作法や授業への導入効果について学会発表をおこなつてゐる。

現在進行中の研究は新製図規格を盛り込んだ新しい機械製図法のビデオテープの製作とマイコンを使ったいろいろな教育機器のハードとソフトの両面の研究開発をおこなつてゐる。

(鈴木 昭助教)



コーヒーブレイク会場にて(大川教授)

ナイアガラの滝

三 浦 鞆 郎

この冬はいつになく寒い日が続いている。日本海側には豪雪のようだし、南関東にも大雪があつた。北米大陸はもっと厳しい寒波に襲われているというから、ナイアガラの滝も凍っているに違いない。

旅行案内書には、冬は滝が氷結するので、流れ落ちるすさまじさを見るには不向き、と書いてあるが、凍りついたナイアガラの滝なら、いちど見てもいい。もしもしだいに凍りはじめて、ついに滝の化石になる、その過程を幾日もかけて見るのができたら、きつとすばらしいだろうと思う。

だいたいは、世間で騒がれているところを見るのは好きではない。かつては鎌倉と箱根と日光をまだ見ていないことを自慢していたが、その後鎌倉は所用で訪れ、箱根は小学校の生徒の遠足についていて、見てしまった。日光だけはまだ行っていない。これから、へそ曲がりと言われているいから、東照宮と華厳の滝は見ないつもりである。

昨年の五月にカナダを旅行したときも、ナイアガラの滝だけは見ないで帰つてこようと思つていた。しかし世話をしてくれた人たちの親切もあり、同行の人たちの希望もあつて、私としては万止むを得ず見物してきた。そして、坦々たる平野を莫大な量の水が流れてきて、大きな段差にぶつかれば、このようなけ威しの滝ができるのはあたりまえではないかと思つた。この旅行は語学研修の学生を受け入れる大学の調査をするのが目的であつたから、アンカレッジのAPU (Alaska Pacific University) 、バンクーバーのUBC (University of British Columbia) 、VAC (Vancouver Community College) それからトロント大学 (University of Toronto) を訪ね、学長にも会つてきた。APUの学長からは、地球儀を持ちだしてきて、日本はもっとアラスカの石油を買うべきだ、という話まで出た。どの大学でも日本の学生の受け入れには非常に積極的で、またどこに行つても日本人学生がたくさんいるのには驚いた。夏にはもっと多くなることであらう。

五月は北国のいちばんいい季節で、アラスカを除いては、花園のなかを歩いているようであつた。ことにバンクーバーが美しかった。大きな公園がいくつもあり、ライラック、マロニエ、花水木、リンゴ、梨などが、いっせいに花をつけていた。花水木 (dog wood) は近ごろ日本でも盛んに植えられているが、やはり本家には違ふなと思つた。花のつき方が違ふのである。

この夏学生が、もちろん希望者だけであるが、でかけることになつてゐるUBCも、同じように美しかった。大学は、海に突きでた半島を占領してゐて、広大な敷地に校舎が散在し、その間には手入れの行き届いた庭園があつて、花がいっぱい咲いてゐた。

私たちは、先日来日した大学にも立ち寄つた留学生担当のリンハウ女史に案内されて、英語の授業も見学した。十人から十五人くらいの学生が若い先生を囲んで、笑い声をまじえて勉強してゐた。日本の学生もたくさんいた。これなら安心だと、私たちは喜んで宿舎に戻つた。

バンクーバーは美しい町であるばかりでなく、治安が非常にいいらしい。帰りに寄つたニューヨークやロサンゼルス、サンフランシスコでは物騒な話をしきりに聞かされたが、ここではそういう話は全然なかった。町の人々は親切で、日本に對し好意的であつた。

少し遠いけれども、東海岸のトロントもいい町であつた。トロント大学は、日本語科の主任教授であるリチャードさんに案内してもらつた。非常に歴史の古い大学で、どの建物もみな風格があり、ナイアガラの滝よりもはるかに楽しかった。リチャードさんは日本語が非常に達者で、利茶堂という名刺まで持つてゐた。今年の夏には、有給休暇で来日し、一年間滞在するということなので、再会を楽しみにしてゐる。太平洋のむこう側にゐるカナダも、ずいぶん近くなつたものである。

研究室では 21

自動化・教育工学研究室

当研究室では三つの分野の研究・開発を実施している。それは①自動化について②工業技術博物館の設立および関連事項について③教育工学についてである。

自動化については、鈴木が一九六〇年頃から手掛けていた、いろいろな生産部門で使用する単能自動機および装置の研究開発はもちろんのこと、さらに一歩進め、いろいろの自動生産システムの設計および製作指導(部は製作している)をおこなつてゐる。

この部門の代表的なものでは十年位前から開発に着手した「ベルスモータ」の組立、検査、包装および入庫などの

組立ラインBなどの開発に取り組むべく、目下その準備に追われている。

また、自動化部門では、電気工学科の片山研究室と共同で「立ち姿勢でも自由に移動可能な作業用電動車いす」の研究開発を学内特別研究費などの援助のもとに進めている。

このほかに、鈴木個人で、(社)日本産業用ロボット工業会の中の「ロボット利用安全化自動化システムのシステム設計」を策定研究するいろいろな委員会の委員を数年前より務めている。ここでは炭鉱や鉱山の坑道内で使用するいろいろな作業用の特殊ロボットの概念設計などを担当している。

ここでの情報などをベースにいろいろな分野で使用される特殊な産業用ロボットの研究・開発を計画し、目下、そ

の準備中である。博物館関係については、先に博物館の意図するところを本紙上に数回にわたり発表しているのを割愛する。

この部門の研究の最終目的は博物館を作り上げることであるが、関連する学問、たとえば産業考古学・産業記念物の保存(記録)と研究に関する学問——などの研究もある。この部門では鈴木が展示品などの収集などに当たつていて、収集したものものの整理・修復などの作業および複製品の製作作業には専属職員と一部の当研究室の卒研生の手により、鈴木指導のもとに進められている。これらの諸作業から得たものをベースにした研究発表を目下準備中である。

このほかに産業考古学とはちよつと肌合が違ふが、大量

カナダ短期留学への いざない(語学研修)

ことしの夏の4週間、英語を学びながら外国生活を送ってみませんか。3週間の実践英語の研修、1週間のアメリカ西海岸体験旅行を企画して、ただいま受付中です。

研修期間：8月5日～9月2日(29日間)
研 修 先：プリティッシュ・コロンビア大学
費 用：545,000円
申込締切：5月10日

お問い合わせ・申込は
教務課窓口まで

前向きのカレツジライフを

竹内淳彦



こと。それは当然のことです。これから四年間、いろいろな新しい分野について目を輝かせて前向きに頑張って欲しいと思います。

もう一つの大学生活の目的は社会性を身につけることです。

以前は本学を卒業するとほとんどが生産と直結する仕事に就きましたが、いまは大きく変わっています。諸君もよく知っている

ように経済の国際化が激しく進むなかで、工業に携わる者も広い視野をもち、社会性を具えることが強く求められています。

このことは、経営や流通部門で活躍するエンジニアが増えていることと無関係ではありません。大学の四年間、大いに視野を広げ、社会性を身に付けるように心掛けて欲しいと思います。

私達は、この世界を構成する
さまざまな人々と付き合い、そ

の社会を支え、前進させていく
 必要がありますが、そのための
 姿勢を確立し、行動力を身に付
 けて欲しいと思います。

そのための第一はよい友人をつくることです。よい友情は若いうちに結んでおきたいものです。本学には、北から南から、

そして外国からいろいろな風土で生まれ育ち、考え方も違う学友が集っています。ただ座していい友人を待つのではなく、積極的に付き合ひをもって欲しいものです。

集団生活の中で礼儀を正しく身につけ、先輩・後輩そして同期生と裸の付き合いをする場合は何といってもクラブ活動でしよう。もちろんこれには各々の委

員会や学祭での活動も含まれます。兄弟の数が少く、個人の部屋をもち、また、物があり余る中で、どうしても自分勝手にな

りがちな昨今、規律を持った集団の中に身を投じ、若人同志汗を流し合い、共に議論し、何かを創造する生活は、人生八十年

を強く生き抜くためにもきわめて大切なことだと思います。

本学には体育系・文化系たくさんのクラブがあります。どう

かその一つを選び、大学の青春を賭けて欲しいものです。卒業生でクラブ活動を全うした人はクラブに入って本当によかった

と誰もが語っており、他の人達の多くはクラブに入っておけばよかったと後悔しています。

また、大学にはいろいろな専門の先生がおります。講義を通じてだけでなく、波長が合いそうだとか、ぜひ話がしてみたいと思ったら積極的に研究室の扉

(學生部長・教養科教授)

視野を、広く持て！

和田敏一



ています。つまり、工学への独自の道を歩んでいるわけです。

とはいえ、その独自性は教養科目の軽視を意味しているわけではありません。このことは、講義要綱の中に多くの教養科目がもられていることから推察で

きるはずです。この点が、大学と専門学校との大きな違いです。しかし、例年、相当数の学生が教養科目の単位をおとして留年しているのを考えると、どうやら心の片隅に教養科目軽視の

観念が潜んでいるのではないで
しょうか。まことに残念なこと
です。

分の専門とは直接のつながりがないようでも、実はその底辺で

自分の専門ではないが、大変関連の深い隣接した学問。第三は自分の専門に深く入っていくための跳躍台としての学問。上記

のように、大きく分けられると思います。

小生の研究仲間の一人、関西大のM先生は、次のような設問「大学で学んだ教養科目の中でとくに興味をもったものは何ですか。その科目名と、できれば

その中でどんな内容かについて記してください。」をして、教養科目に対する学生の興味・関心について調べている。調査対象校は、早大、中大、関西大の三校に過ぎなかったが、教養科

目に対する学生たちの受けとめ方が分つて興味深い。そして、彼は次のような考察を加えている。その科目（教養科目）を受ける

世界に導入されたことであり、そのための喜びや驚きの気持ちがうかがえる。そして、多くの学生たちが、自己の専門分野以外

の科目、たとえば法学部の学生が物理学や人類学を、史学科の学生が生物学や政治学を、そして工学部の学生が歴史学や人文

地理学などの科目をあげていることに着目している。そして、

そのことこそが、教養科目の意義のひとつであり、学生たちが自己の専門領域に狭く閉じこもらない、より広い学問的視野をもっていることは重要なことで

あると指摘しているのである。

穴を深く掘るためには、穴の周辺を広くしておかねばならない。この道理と同じように、技術者としてその専門を深めるためには、できるだけ教養の幅を

広げておくべきです。自己の専門領域のみに狭く閉じこもってはなりません。大学入学を機にせひとも、より広い学問的視野を身につけるよう、これからの

勉強にとりくんでももらいたいの
です。

大学生活の第一歩を踏み出して
ください。

（教養科主任教授）

59年5月—
60年4月

行事予定

5月4日	休校
5月30日	体育祭
6月29日	学園創立記念日
7月12日・23日	前期末試験
7月24・25日	補講
7月24日・9月19日	夏期休暇
7月26日・30日	教職課程集中
9月10日・26日	大学院推薦入
9月17日・19日	教職課程集中
10月1日	大学院推薦入学生合格発表
10月1日・13日	大学院一般入学生出願期間
10月4日・8日	後期履修申告
10月15・16日	大学院入学生試験
10月20日	大学院一般入学生合格発表
11月1日・15日	推薦入学生出願期間
11月1日	休講
11月2日・4日	大学祭
11月5日	休講
11月21日	推薦入学生合格発表
12月10日	推薦入学生第一回目手続き締切
12月21・22日	補講
12月21日・1月9日	冬期休暇
12月23日・25日	教職課程集中
1月10日・2月13日	一般入学生出願期間
1月24日・2月4日	期末試験
1月31日	推薦入学生第二回目手続き締切
2月15日・16日	一般入学生試験
2月21日	一般入学生合格発表
2月21日・3月2日	大学院一般入学生(二次)出願期間
2月28日	一般入学生手続き締切
3月5・6日	大学院入学生試験
(二次)	
3月8日	全学成績発表
3月9日	大学院合格発表
3月20日	卒業証書および学位記授与式
4月4日	入学式
4月4日・6日	オリエンテーション
月8日	60年度授業開始

体 育 会

ク ラ ブ 名	顧 問	学 生 責 任 者	ク ラ ブ 名	顧 問	学 生 責 任 者
航 空 部	小倉 勝助教授	中村 伸二 (A・3)	ア ー チ ャ ー リ ー 部	高橋篤夫助教授	永礼 広宣 (E・4)
無 線 部	中道 一郎教授	永田 芳文 (E・3)	アメリカンフットボール部	酒井 誠助教授	岩本 昇 (A・4)
BJPフルバンドジャズサークル	木村 哲三助教授	池野 博樹 (S・3)	ウエイトリフティング部	松木 繁教授	佐藤 忠一 (A・4)
モダンフォークソングサークル	大塚 賀弘教授	細割 政道 (A・3)	応 援 団	窪田 英毅講師	川崎 孝行 (S・3)
写 真 部	堀田 勝喜講師	藤田 明久 (E・3)	空 手 道 部	竹内 淳彦教授	海野 毅 (A・4)
自 動 車 部	小倉 勝助教授	池沢 健一 (E・3)	剣 道 部	難波恒夫助教授	小山 豊 (E・4)
第 三 文 明 研 究 会	桑田 正信教授	一場 康夫 (S・3)	硬 式 テ ニ ス 部	鈴木一良助教授	西川 昌吾 (S・3)
聖 書 研 究 会	伊藤 隆助教授	鎌上 茂樹 (A・4)	硬 式 野 球 部	柳沢 章助教授	勝間田 実 (A・4)
ユースホステルクラブ	高橋篤夫助教授	大森 正義 (E・3)	ゴ ル フ 部	長田 重慶教授	大類 義和 (A・4)
美 術 部	杉本安次郎教授	太田 直樹 (M・3)	サ ッ カ ー 部	城戸 卓男講師	北 広久 (A・4)
新 建 築 デ ザ イ ン 研 究 会	宮坂 修吉教授	高栖 智 (A・2)	射 撃 部	高橋 琢二教授	小島 純宗 (M・4)
自 然 愛 好 会	泰野真左親講師	諸岡 功 (E・3)	柔 道 部	大川 陽康教授	成田 浩士 (E・4)
計 算 機 研 究 会	飯倉道雄助教授	大竹 利己 (E・3)	少 林 寺 拳 法 部	大久保勝弘教授	倉田 繁治 (M・4)
芸 能 研 究 倶 楽 部	伊藤 隆助教授	伏見 政彦 (E・3)	ス キ ー 部	酒井 茂紀講師	田辺 隆 (E・4)
ロ ッ ク フ ィ ー ル 部	玉木 保助教授	内山 昇 (A・3)	器 械 体 操 部	小林 勉教授	三谷 昇 (A・4)
マ イ コ ン 同 好 会	片山 滋友講師	関根 正次 (E・3)	卓 球 部	榑田 昇教授	工藤 淳 (E・2)
放 送 研 究 会	片山 滋友講師	北澤公一郎 (S・2)	軟 式 テ ニ ス 部	岡本 鍾輔教授	横尾 正志 (E・4)
鉄 道 研 究 同 好 会	岩瀬 勝教授	菅谷 引 (E・2)	日 本 拳 法 部	石崎 敬三教授	元木 智章 (E・3)
			バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	鈴木寛次助教授	佐藤 丈夫 (A・4)
			バ ド ミ ン ト ン 部	杉本安次郎教授	田崎 真光 (E・3)
			バ レ ー ボ ー ル 部	廣瀬 治男教授	佐藤 尚明 (E・3)
			ハ ン ド ボ ー ル 部	大塚 賀弘教授	西島 功 (A・4)
			ボ デ ィ ビ ル 部	中道 一郎教授	遠藤 智泰 (M・3)
			ヨ ッ ト 部	宮坂 修吉教授	吉野 宏岳 (E・4)
			ラ グ ビ ー 部	宮井正弥助教授	鈴木 勝 (S・4)
			陸 上 競 技 部	桑原文夫助教授	和久井功雄 (A・4)
			ワ ン ダ ー フ ォ ー ゲ ル 部	川副 富男教授	吉岡 浩一 (M・4)
			弓 道 同 好 会	小倉 勝助教授	鈴木 悟 (S・4)

教職員人事

四月一日付

▽新任

田中知英(英語)



昭和五十七年三月、本学機械工学科卒業。黒津高行教育技術員(建築技術)

石川 豊助手(電気工学科)



昭和五十二年三月早稲田大学文学部英文学科卒業、五十六年三月米国カンザス州立大学教育学部博士課程総合学試験修了。五十七年四月から本学英語科の非常勤講師。「外国語教育法」について研究を進めている。

川村清志助手(建築技術センター)



花形治実教育技術員(機械工作センター)

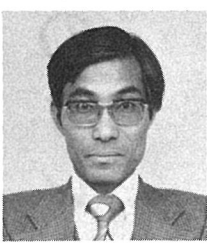


▽昇任

横谷 一郎助教授(機械工学科)



昭和四十三年三月、東京都立大学工学部機械工学科卒業。四十七年四月、本学機械工学科講師として就任。「溶融溶液における溶融金属の流動機構と熱物質輸送の解明」などを研究している。



鈴木 寛次助教授(英語)

華中工学院副院長ら来学

学术交流などの実施段階に入る

五十八年十月六日、本学と華中工学院との間で、学术交流に関する取り決めと研究協力関係の確立が完了した。帰国後、同学院から客員研究員の派遣について要請があり、本学ではこれを快諾した。

これに関連して、二月二十日、華中工学院の王樹仁副院長、劉鑑外事處處長、黄一夫自動制御研究室の講師で、本学では電気工学科の石井治教授に師事して「マルチCPUによる制御技術の研究」をすることになる。

初のカナダ人英語講師

英語科の非常勤講師として、外国人講師が、この四月から正規の授業を担当している。外国人による英語授業は本学では初めてのこと。この外国人講師はマッケラス(Terence Josef



McCrath)氏で、一九三三年、カナダ・モントリオール州のフォート・ウィリアム生まれ。ヨーク大学など三つの大学で、人類学、英文学、露・仏語などを学んだ。全学科の一年生と大学院生の授業を担当している。

新図書館長に齊藤亨教授が

前図書館長・塩原正典前建築学科教授の逝去にともない、空席となっていた図書館長に、齊藤亨教授(工学)が、四月一日付で正式に任命された。



事務局だより

▽教務課

「個人別履修時間割」の配布とその確認について
すでに提出された「履修申告シート」は、電算機で処理され、授業に関連する各種データ作成の原本となります。学生諸君には、各自が履修申告した内容を「個人別履修時間割」という形で、電算機で打ち出した後、ゴロデンウィーク明けに、中央ロビーで配布します。必ず受け取って、自分の時間割の内容を確認してください。

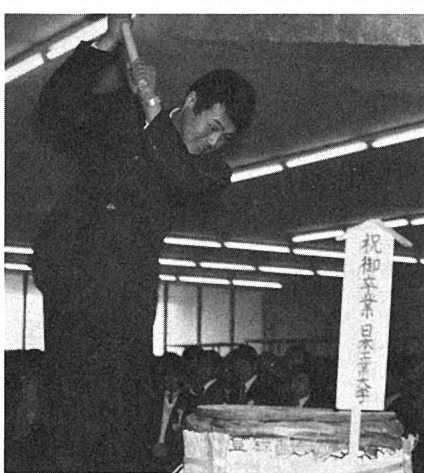
毎年の例ですが、科目名とそれに付いている科目番号が一致しない、とるべき科目の曜日・時間まちがっている、受講しているのに履修申告がされていない、など申告時点でのミスがあります。このまま放置しておくと、大変なことになります。「個人別履修時間割」を受け取ったら、念入りにチェックをして確認ものにしてください。

教職課程 集中講義

- 「教育史」(平野)
7月26日・30日
- 「技術科教育法」(土井)
7月26日・30日
- 「木材加工」
9月17日・19日
- 「機械実習」(酒井)
9月17日・19日
- 「道徳教育の研究」(和田)
9月17日・19日
- 「栽培」(比田井)
12月23日・25日

皇山賞 がんばり屋 赤塚君卒業

三月二十日、卒業証書授与式終了後、本学の大食堂で行われた卒業祝賀会で、機械工学科卒業生の赤塚光広君が、三浦学長から特別の指名を受けて、祝いの酒(四斗樽)の鏡を抜く代表に選ばれた。祝賀会の席上で、学長がその代表を直接指名することとをきかれて、例外的なこと、それだけに、価値ある代表であった。



歓声と祝福を背にうけて

「前号の記事追加」
本紙第三十二号のシステム工学科「卒業研究一瞥」に、つぎの記事を追加します。
【豊田 昇研究室】
☆ブラック回折格子を用いたマルチバイブレータに関する研究
寺嶋 徹

鉄道模型教室受講生募集

東京工業高等学校(東京都目黒区駒場)で127ミリゲージSL、DL、ELの作り方教室を開校します。質量ともに充実している実習・実験設備を使って、自分の鉄道模型を作り、大学に敷設されている軌道で走らせてみませんか。資格は問いませんので、どなたでも受講ができます。お問い合わせ・お申込みはつぎのところまで。

学校法人東工学園 東京高等工科大学
鉄道模型研究会 TEL 03-467-2131

- 開催日 毎週水曜日 午後5時40分～9時
開催期間 昭和59年5月～昭和61年4月(2年間)
制作コース ①自由課題コース
②規程課題コース
募集人員 各コース 60人(定員に達するまで随時受付)
費用 入会金 30,000円
受講料 67,200円(三期分納ができる)
材料費 20万円前後(製作機種で異なる)